

保育者養成課程における情報活用教育の実践

ービブリオバトルの導入を通してー

諏訪有香¹⁾、伊達 諒²⁾

¹⁾ 高知学園大学高知学園短期大学図書館、²⁾高知学園短期大学幼児保育学科

本報告は、幼児保育学科の学生を対象に実施した図書館連携授業の実践について報告するものである。近年、保育者養成課程においては、子どもや保護者に関わる多様な情報を適切に収集・理解し、それらを他者に応じた形で伝える力の重要性が高まっている。特に絵本は、保育実践において重要な教材であると同時に、子どもの発達や興味関心に応じて選択し、その魅力や意図を適切に伝えることが求められる。本授業は、こうした資質・能力の育成を目的として実施したものであり、認定絵本土養成講座「第17講 絵本を紹介する技術①ブックトークの技術」の内容を基盤として構成した。

授業の実施にあたっては、絵本の内容理解に加え、その魅力を他者に効果的に伝えるための手法としてビブリオバトルを導入した。ビブリオバトルは、発表者が推薦図書について制限時間内に紹介し、参加者が最も読みたくなった本を投票によって選ぶ書評合戦であり、主体的な読書と情報発信を結びつける活動として注目されている。本実践では、映像教材を用いた導入により活動のイメージを共有した上で、学生自身が絵本を選定し、内容の把握、構成の検討、発表資料の整理を段階的に行った。さらに、発表当日は相互評価を取り入れ、聞き手としての視点も養うよう工夫した。

また、本授業で実施したビブリオバトルは、全国大学ビブリオバトルの予選として位置づけられ、優秀者は四国Cブロックのブロック決戦へと進出し、その後の本戦出場へとつながった。このように、学内の授業実践が学外の発表機会へと接続されたことで、学生にとっては学習活動の意義や目的がより明確になり、主体的な取組を促す要因ともなった。

授業の成果として、学生は絵本の内容を単に理解するだけでなく、発表を前提として情報を整理し、要点を抽出しながら自らの言葉で再構成する力を身につける様子が見られた。また、聞き手の反応を意識した表現の工夫や、限られた時間内で効果的に伝えるための構成力の向上も確認された。さらに、他者の発表を通じて多様な作品や視点に触れることで、読書体験の広がりや学習意欲の向上にもつながった。

本実践は、図書館が授業と連携しながら、資料提供にとどまらない教育的役割を担い得ることを示すものである。また、こうした取組は特定分野に限定されるものではなく、対人支援職を志向する学生に共通する基礎的な情報活用力および発信力の育成に寄与するものと考えられる。本発表では、授業設計の工夫および実施過程を整理するとともに、保育者養成課程における図書館の関与の意義と今後の展望について検討する。